

町村に伺いました

訪問の様子とトピックスを随時お伝えしていきます。
更新をご期待ください。

-町村の皆さんからお話を伺いました- No.12

障がい者支援施設 みどりの園

R2.6.29



就労継続支援 B 型、生活介護、施設入所支援を多機能で事業展開している歴史ある事業所です。地域の利用ニーズに応えながら、道東エリアや道内各地からの相談もお受けしている様です。今回のお話では、長く事業を継続している事による対象者の高齢化、対象者の将来に向けた展開を考えていく難しさと言った課題をお聞きました。B 型の活動でバリバリ仕事をしている方たちが次の展開を考えたときに、町内に働く受け皿が少ないことを課題とし、林業・農業・酪農業等の 1 次産業以外の体験をする機会を開拓する等、活動の広がり求めているという意見を伺いました。他地域でも話題になっていましたが、他事業所との交流の機会が少なく、職員同士や福祉と企業の意見交換の場など、人材育成のために外とのつながりというお話も伺いました。

施設長の湯浅さん（左）、施設次長の小澤さん（右）にご対応いただきました



陸別町役場

R2.6.29



今回の訪問では、相談支援事業を行いたくても人材が集まらない地域事情とともに、行政の抱えるジレンマをお聞きすることができました。過疎化に伴い、町内のインフラが整わなくなっている状況があるとのこと。特に生活に欠かせない病院がなくなる危機があり、町の観光名所であるりくべつ鉄道の魅力とのコラボで歯科医院を誘致できたお話は、陸別町ならではの感じました。また、直営での相談窓口が無いことから、サービス利用の実態を把握するために、福祉担当者が状況確認を行う等の工夫をしているようです。障がいのある方の仕事が、第 1 次産業が中心という共通理解をお持ちのため、みどりの園でお聞きした様な、複数の業種での就労ニーズをお伝えし、今後 1 歩でも前進できるよう、検討できる場を持ちたいと感じました。

保健福祉センター主任主査の吉田さん（左）、同じく福祉担当主事補の印牧さん（右）にご対応いただきました



ふれあい共同作業所

R2.6.29



手をつなぐ親の会が運営主体となり平成 6 年に小規模作業所として開設、平成 18 年に地域活動センター、平成 23 年に就労継続支援 B 型の指定を受け活動を行っています。町内での互いに顔の見える関係が築けているからこそ、引きこもりの方や支援が必要と感じる方などに事業所として声をかけ、利用につながった事例があるとのこと。

利用されている方全員が町内在住とのことで、小規模の良さを活かしながら、利用者に寄り添い活動を続けていच्छる経験談を伺いました。また、事業運営に関わる手続きや申請など、不慣れな中で対応されていることもお聞きました。同規模の事業所との意見交換や相談できる窓口を求められているとのことでしたので、対応できる機会をご紹介しますと考えています。

所長の高橋さん（左）、次長兼職業指導員の秋葉さん（右）にご対応いただきました



今回の訪問で、18 町村の全ての役場への訪問を終了しました。

町村まわりをする中で、住民情報を把握できる良さと、地域とのつながりがあるからこそ触れられたくない家族事情など、地域性と共にデリケートな状況も知ることができました。

そのような中、各町村が『どのような切り口で住民情報の把握を行っているか』に地域性を感じます。就労の切り口で見ると、幼少期からの早期療育や高齢包括などの縦の体制ができている町村、直営の相談支援があり相談者のニーズの把握から事業所との対応を行い全体状況がつかみやすい町村、福祉課だけではなく商工観光課・農政・財政などの横のつながりとともに各種制度の組み合わせを考えながら対応している町村と大きく特色を分けることもできます。各町村でお聞きした内容は、情報を整理し、好事例や課題の分析をした上で、今後共有の機会を検討したいと考えています。

今回伺った沢山のアイデアや活動を原動力に、関係機関と連携した意見交換を実施することで皆さんのお役に立ち、地域の財産になるような期待を持てる町村まわりとなりました。

ご協力いただきました全ての皆様にお礼を申し上げます。

今後も就労系障がい福祉サービス事業所を中心に訪問は継続致します。

今後も引き続き情報発信にご期待ください！！